ぎない。我々は少なくとも，これらの物語群から，小説，戯曲のルーツとなる物語の原初的形態を探ることができるし，脈々と息づいている民間信仰の中に現れる神話・伝説についても貴重な手がかりを見出すことができると思われる。中国に限らず，アジアの民間文学，民間信仰の重要な資料として大いに活用されることが期待できる。（文責・鈴木陽一）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

『清蒙古車王府蔵曲本』

首都学苑出版　2001年12月

本シリーズは清代18世紀のモンゴル族貴族，喀爾喀賽音諾諺部の車布登札布，通称車王が収集した北京の戯曲，芸能のテキストを影印したものである。原本は全て刊本ではなく書写本であるが，その美麗さから，相当数が宮中の梨園で用いられていた戯曲，芸能の脚本類であろうと考えられている。また，当時，演じられた芸能を記録し，これを美麗な写本に仕立てて販売したり，賃貸しする商売が相当に繁盛していたが，そこから購入したものも少なくないであろうと思われる。いずれにせよ，これだけ大量の，18世紀北京という限定のある戯曲，芸能の上演テクストを見ることができることは，今後，中国の文学研究全体にとっても大いに意味があろうし，また北京という都市の歴史研究にも益するところ大である。

なお，前述『俗文学叢刊』には混乱の中で車王府から散逸したテクストの一部が収められている。また，『俗文学叢刊』と『車王府曲本』とを比較してみると，同じ民間の物語であっても，一般庶民の愛したものと，貴族達が好んだものとの違いが見えてくるはずで，この二つの資料を同時に購入したことで，それぞれの資料の利用価値は一層高まったと言えよう。（文責・鈴木陽一）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

『大連図書館蔵孤本明清小説叢刊』

春風文芸出版社　2000年

かつて大連にあった満鉄図書館には，大谷氏より中国古典小説がまとまって寄贈された。孫楷第の目録（『日本東京所見中国小説書目——付大連図書館所見中国小説書目』）によれば，日本での写本も少なくないが，収められた小説は当時さほど評価の高くなかったものが多い。しかし，今となって見ると，ここに収められた小説の多くは明末清初に出版された，美男美女がハッピーエンドを迎えるという「才子佳人」小説と言われるもので，文学史上，『金瓶梅』に代表される明の小説と，『紅樓夢』に代表される清代小説の間の空白を埋める作品である。その意味で，すでに多くの研究者がこの作品群に着目してきたが，原本は無論のこと，書目さえも公開されてこなかった。幸いに80年代に春風文芸出版社より活字本が出版され，また現埼玉大学教授大塚秀高氏が中国側の協力を得て，短期間ながら版本調査を行い，ようやく少しずつ貴重な資料が陽の目を見るに至った。しかし，出版されたテクストの多くが天下の孤本とあって，校勘記もない活字本では使いようもないというのが多くの研究者の見るところであった。今回ようやく原本の影印本が刊行され，文学史上の空白を埋めるための貴重な資料が本格的に利用可能になったのである。

すでに，これまでの版本研究の見直しによって，15世紀から18世紀に至る中国小説史を再検討する動きが始まっており，そうした新たな研究動向にこの貴重な影印資料が大きく寄与するであろうと思われる。また，これらの資料が日本から中国へ渡っていった過程には，日本の書誌学や近代史の研究にも関わる問題が存在しており，こうした点からの活用も大いに期待されるのである。（文責・鈴木陽一）